

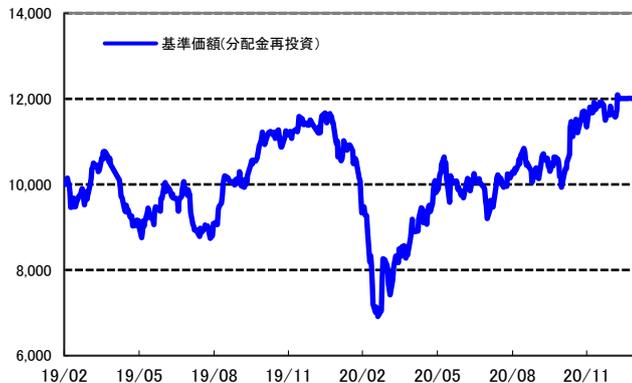


運用実績

2021年1月29日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※ 12,009 円

※分配金控除後

純資産総額 191.3 億円

- 信託設定日 2019年3月1日
- 信託期間 2025年3月4日まで
- 決算日 原則 3月4日
(同日が休業日の場合は翌営業日)

騰落率

期間	ファンド
1カ月	2.6%
3カ月	20.9%
6カ月	30.5%
1年	12.3%
3年	-

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来 20.1%

分配金(1万口当たり、課税前)の推移

2020年3月	0 円
-	-
-	-
-	-
-	-

設定来累計 0 円

設定来= 2019年3月1日 以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2021年1月29日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
東証1部	-
東証2部	-
ジャスダック	-
その他の市場	-
株式先物	-
その他の資産	100.0%
合計(※)	100.0%

※先物の建玉がある場合は、合計欄を表示しておりません。

業種別配分

業種	純資産比
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
その他の資産	100.0%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

特性値

	ファンド	(参考)TOPIX
実績PBR	-	1.3 倍
予想PER	-	17.4 倍
予想配当利回り	-	2.1%
ベータ値	-	-

- ・予想配当利回りは、東洋経済新報社予想。
- ・実績PBR、予想PER、予想配当利回りは、株式の組入比率で加重平均した数値。
- ・ベータ値は、BARRA日本株モデルの推定ベータです。
- ・TOPIXは、ベンチマークではありません。

組入上位10銘柄

2021年1月29日 現在

銘柄	業種	市場	純資産比
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
合計	-	-	-

組入銘柄数: -

・業種は東証33業種分類による。

この報告書は、ファンドの運用状況をお伝えすることを目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。



先月の投資環境

- 1月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が月間で0.23%上昇し、月末に1,808.78ポイントとなりました。
- 1月の国内株式市場は小幅上昇しました。月初は、国内での新型コロナウイルス感染拡大を受けて再び国内景気が落ち込むとの見方が強まったことなどで下落して始まりました。その後は、米国において大統領、上院、下院いずれも民主党が制す「トリプルブルー」が決定的となったことで大型の経済対策などへの期待が高まり上昇に転じました。国内では2回目の緊急事態宣言が発令されましたが株式市場への影響は限定的でした。中旬に入ると、パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長が金融緩和の長期化を示唆したことなどが相場の下支え要因となった一方で、日経平均が30年来の高値水準となったことで警戒する見方も広がり一進一退の動きとなりました。月末にかけては、米国個人投資家の投機的な動きが株式市場全体への混乱につながるとの見方から下落し、国内株式市場は月間では小幅な上昇にとどまりました。
- 東証33業種で見ると、サウジアラビアの減産などによる原油価格上昇で業績改善が期待された石油・石炭製品など18業種が上昇しました。一方、新型コロナウイルス感染拡大を主因とした医療機関の収益悪化などによる医療機器需要の落ち込みが懸念された精密機器など15業種が下落しました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

- 月間の基準価額の騰落率は+2.57%となりました。
- 業種別に見ると、輸送用機器や鉄鋼に属する保有銘柄が上昇したことなどがプラスに寄与しました。
- 個別銘柄では、リースや不動産事業を手掛ける大手金融サービス会社や、粗鋼や化学品を製造・販売する大手鉄鋼メーカーが上昇したことなどがプラスに寄与しました。
- なお、当ファンドの基準価額が1月7日現在で12,092円となりました。約款(運用の基本方針)の定めに従い、1月8日より株式等の組入比率を下げ、安定運用に切り替えております。

今後の運用方針

(2021年1月29日現在)

- 当ファンドは、3月4日に信託の終了日(繰上償還日)を迎えます。
- これまでのご愛顧、誠にありがとうございました。なお、マンスリーレポートは今月をもちまして最終となります。

この報告書は、ファンドの運用状況をお伝えすることを目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。